

川根の良さを大人から子どもにまで知ってほしい――

今年創立50周年を迎える川根小学校。その記念事業の実行委員長になった伊藤さんは、子どもから大人までを巻き込み、一大イベントを成し遂げようとしています。

【みんなの学校のために】

地元で建築板金業を営む伊藤さんは、川根小学校の卒業生です。同校に通う子を持つ親として、また地域の経営者として、学校行事や地域活動に携わってきたからこそ、今回の実行委員長を引き受けたのだと話します。



「PTAや商工会に関わっていたことをきっかけに、声が掛かりました。自分が幼い頃から親しみ、今では我が子も通う母校を、大きな節目に盛り上げたくて承諾したんです。また、形式的な式典だけでなく、『みんなの学校』としての存在を地域で再認識してほしいという、小林

前教頭の思いも引き継ぎたいという気持ちでした」

【在校生と作り上げる事業】  
11月24日(土)、川根小学校を会場に行われる50周年記念事業。式典や在校生の学習発



川根小 50周年記念事業 実行委員長  
伊藤栄喜さん (川根町家山)

式典で流す映像のドローン撮影では、子どもたちが参加者を募集しましたし、『川根ラブアクション』と題して総合学習の時間を使い、この記念事業に関わる地域の行事を行ってきました。これらの経験を

表会、アーティストと子どもたちのステージショーなどを予定しています。  
「学習発表会やショーでは、子どもたちに準備から当日まで色々なことで参画してもらっています。第一部の

通じて、子どもたちが地域の良さを再発見してくれると嬉しいですね」  
【川根で多くを感じて欲しい】  
「私は、このまちに住み続けたいと思っていますが、人口

は減る一方です。それなら、イベントで地域を盛り上げたり、若い世代やその親に、まちの良さを伝えたりしようと思ったんです」と語る伊藤さん。自らが川根で得た価値観を伝えていければという思いで、さまざまな活動に取り組んでいます。

「最近では、進学などを機に地元を離れる若者が多いですが、転出して戻って来てももらえるよう、川根の良さを伝えていきたいです。何が豊かで、何が幸せかを子どもたちに分かってもらいたい。誰でも受け入れてくれる人の温かさや、山や川のような自然も、都会では得難いものです。顔の見える近所の人たちや友達がいて、お祭りになればみんな盛りが上がる。当たり前とされていることが豊かで幸せなんだと、後で思ってもらえるような関わりのきっかけを作りたいですね」

自分を育ててくれた川根を、活性化させて守ろうと取り組む伊藤さんの目は、これから川根の未来を担う世代に向けられています。



恒例の「大井川横断こいのぼり」では、川小の児童が作ったオリジナル作品を含むこいのぼり約100匹の取り付け作業に、伊藤さんも汗を流しました。

Shimadajin File #82

Story 島田人